

ろくおん通信 NO. 170

発行日 2009年5月15日

発行: 盲人情報文化センター録音製作係
〒542-0077大阪市中央区道頓堀1丁目東3番23号道頓堀千鳥ビル
電話 06-6211-0910 (録音製作係直通)<http://www.iccb.jp/index.html>

聞いてわかる図書を作るために (第33回)

目次の読み方を考える

録音図書を利用する時、目次は利用者にとって大きな手がかりです。私たちは何気なく見ていますが、墨字の本では項目の大小が一目でわかるように作られています。章・節などの言葉がついている目次は、そのまま読んでも、項目の大小は伝わりません。活字の大小、行頭の高さなどで項目の大小を表現している目次は、そのまま読むと、どの項目も同じになってしまっていて、大小の区別はつきません。こんな時には1、2、…、1の1、1の2、…、など、番号をつけることで、項目の大小がわかるように読まなければなりません。

ローマ数字、算用数字、漢数字など数字のちがいで項目の大小の区別をつけているものも同じで

す。ローマ数字1、とか漢数字1、などと読むことも考えられますが、これではわかりにくいので、番号はきいてすぐわかるようにつけ変えて読んで下さい。

小説などでは、項目に大小がなく皆同じ、デジタル図書ではレベル1だけのこともあり、こんな時は特に番号をつけなくてもいいと思います。又、大項目の下の項目を(1)、(2)、…、などとすることもあります。この場合は同じ(1)が何度もでてきて、自分が今どこにいるかわかりにくいことがあります。その本がどのように利用されるのか、利用者の立場に立って、慎重に考えて下さい。

6月 録音製作予定**『自宅録音チーム』**

9日(火) 『マトリョーシカ』 13時～15時
17日(水) 『はなみずき』 1時半～3時半
25日(木) 『二十四の瞳』 10時～12時

『スタジオ曜日別チーム』

23日(火) 『火曜チーム』 12時45分～
10日(水) 『水曜チーム』 12時45分～
25日(木) 『木曜チーム』 12時45分～
19日(金) 『金曜チーム』 12時45分～
20日(土) 『土曜チーム』 12時45分～

『プライベートチーム』

3日(水) 定例勉強会 1時半～3時

※講師 中井 はつみ 氏

『専門図書音訳チーム』

13日(土) 『古典チーム』 1時～3時
19日(金) 『東洋医学チーム』 3時～5時
日(水) 『理数チーム』 お休み
26日(金) 『英語チーム』 10時半～3時
27日(土) 『パソコンチーム』 1時半～4時
5日(金) 『音声解説チーム』 1時半～3時半

『橋本勝利のフォローアップ講座』

10日(水) 1時～3時 ※随時受け入れ中
12日(金) 1時～3時

月曜日出勤当番

6月8日・29日 林田
6月1日・15日・22日 清水

録音ボランティア再登録のお願い

ただいま、ボランティア再登録を
お願いしています。

盲人情報文化センターで活動
している方で、アンケート用紙が
送られてこない方(来館者は個人
ボックスに入っています)は係ま
でご連絡ください。

録音製作係としても全体のアン
ケートとは別に係のアンケートを
お願いしていますのでよろしくお
願いします。

画面校正について その2

① 「書誌情報」の記入について

大林 緑

書誌情報の記入方法については『ろくおん通信』No.164 に掲載されました。編集者は今一度確認して下さい。

タイトル 書名のみ入れる。原則として副書名はいらない。
書名のシリーズNo. (上・下・第1巻・第2巻など) は入れる。

著者 姓と名の間は1マス空ける。
著者だけの場合→ 下重□暁子
著者と訳者の場合→ デイヴィッド・ローン著□平田□敬訳
著者が複数のばあいは中点で区切って、最後に共著と入れる。

ISBN 必ず半角で入れる。

発行者 「日本ライトハウス盲人情報文化センター」と入れる。
「ICCB」とは入れない。
原本の発行所ではない(新潮社、岩波書店などとは入れない)。
「発行者」は出版所を明記するのが日盲社協の基準で決まっているが当館では当面変えない。

朗読者 編集者 著者と同じく姓と名の間は1マス空ける。

以上の、著者・朗読者・編集者名の姓と名の間1マスあけ、ISBNを半角、発行者は日本ライトハウス盲人情報文化センターと入れる、の3点は書誌情報記入の必須事項です。びぶりおネット発行などに支障を来たすため館が再確認して、違っている場合は入れ直しをしています。
その他の識別名・言語・文字コード・ジャンルとスキーム等は編集では記入の必要はありません。

(注意)

書誌情報は必ず記入して下さい。

画面校正では、タイトル以外未記入のものや上記の3点の誤りのものが見られます。

リクエスト図書などで音声訳者が編集も兼ねて行っている場合は、朗読者・編集者の両方に同じ名前を入れて下さい。

つづく

リスナーの窓 (11)

DAISY図書凡例の謎

福井哲也

DAISY図書の冒頭に入れられるDAISY図書凡例では、あらかじめ聞き手に知っておいてほしい事項を簡潔に説明する必要がありますが、ときおり製作側の意図がきちんと伝わるか少々心配な言い回しも見受けられます。

例えば、「ページ付けはDAISY図書として行い、目次は1ページ、以下原本に準じて、最終ページは234ページです」。この下線部分は、DAISY版であえて原本と異なるページ数を付けた箇所があることを意味しているようですが、「以下原本に準じて」とありますから、基本は原本通りと考えられます。ならば、「ページ数は原則として原本通りで、234ページまであります。ただし、目次は原本と異なり1ページとしています」とする方がわかりやすいのではないのでしょうか。

こんな例もありました。「ディスクのボリューム情報：ディスク全2枚、ディスク・ナンバー1。ディスク収録情報：ディスク1には上、ディスク2には下を収録しています」。この下線部分は、もしかする

と何かの基準書に「DAISY図書凡例にはディスクのボリューム情報・収録情報を入れなさい」と指示されているところから来ているのかもしれませんが、聞き手にとっては難解だと思います。こんな専門用語を使わなくても、「この作品はディスク2枚に分かれています。ディスク1が上巻、ディスク2が下巻です」とすれば十分伝わると思います。（書名が「○○○上」「○○○下」となっているでしょうから、この説明そのものが不要とも考えられますが。）

DAISY図書凡例は、図書館やグループで文言を統一するため、以前からの雛形をそのまま使っているケースが多いと思いますが、聞き手にとってわかりにくい部分はないか、新たな目で見直してみたいはいかがでしょうか。

ところで、「DAISY図書凡例」のアクセントは、「デイジートシヨハンレー」ですね。「デイジートシヨハンレー」と読んでいるのを結構聞きますが、これはおかしいので（DAISY図書の凡例であってDAISYの図書凡例ではない）ご注意ください。



Q 最近のデージー図書で語尾が聞こえなくなるものが時々ありますがどうしてでしょうか。

A 語尾が下がって聞こえないというケースは読み手は声を下げているつもりでも、実際は声が小さくなっているケースがあります。

過去に、カッコ内の文章は下げて読むといった指導があったころは、下げて読めない人が声を小さくして読むことがあり、利用者から「カッコ内のところが聞こえない」といった指摘が多々ありました。これまでデージー図書はウォークマンみたいに歩きながら聴くケースはあまりありませんでしたが、各社から携帯で聴ける機種がいろいろでてきたことから、気軽に外でも聞けるようになりました。そうし

たことで、外で丁度よい音量で聴いていると、カッコ内の文章や語尾を小さく読んでいるものは、はっきり聞こえないといった事が起きます。小さい方に合わせると他のところが大きくなりすぎるなど、聞き手がいらいらすることにもなります。

語尾を下げるつもりで声を小さくして読んでいる人やカッコ内を声を小さくして読む人は気をつけましょう。語尾をしっかりと読み、カッコ内の文章は下げて読むことより、カッコを含む文章の内容をしっかりと伝わるように考えて読みましょう。

音声訳基礎講座、第II期 募集のお知らせ

実施時期：2009年9月25日(金)～2010年3月26日(金)まで、
※毎週、金曜日 10:00～12:00

★2010年4月～2010年8月まで

※月2回、第2、第4金曜日 10:00～12:00

第2金曜「実践製作講習」、第4金曜「読み方講習」

会場：盲人情報文化センター 新館4階 会議室

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-13-2

(盲人)情報文化センター(新館)

講習内容：1. 読み方の基本

2. 記号、漢字、図、表などの音声変換処理

3. Recdiaソフトを使用した録音技術など

4. 調査・録音の順序など

講師：盲人情報文化センター 音声訳講習会講師チーム

資格：①音声訳に必要な「発声」などの基礎的な訓練を終了した方

②自宅で録音ができる方

③講習会終了後も、盲人情報文化センターに月に2回の来館が可能な方

費用：3000円(資料代)

定員：10人

申込方法：申込用紙(記入の上、郵送Faxも可)またはご持参ください。メールでも受け付けます。

〒542-0077 大阪市中央区道頓堀1丁目東3-23

道頓堀千島ビル

社会福祉法人日本ライハウス

盲人情報文化センター録音製作係

Tel 06-6211-0910 Fax 06-6211-1590

E-mail rec@iccb.jp

申込日：2009年9月5日(土)

試験日：2009年9月11日(金)

(盲人)情報文化センター4階会議室 10時～12時

試験内容：①アナウンステスト

②漢字の読み

③音声変換処理センス

④面接

※筆記用具持参のこと 鉛筆、消しゴム

発表：2009年9月19日(土)までご連絡

講習開始：2009年9月25日(金)

10:00～12:00

※ 試験日当日、来館出来ない方は、担当者までお申し出ください。

注意 申し込みは2009年7月10日(金)までお通常通りですが、以降は引越が入りますので、早めにお申し込みください。新館での受付はお盆明け、8月18日(火)からになります。

新潮音訳者の正誤表

自宅録音の方へのお願い

自宅録音の方でデータをCDに焼いて郵送されている方(「ウェブスタジオなにわ」でアップされていない方)は、定例勉強会の時に焼いたCDを持ってきて下さい。センターのパソコンでデータアップの練習をしてもらいます。定例日以外でも結構です。来館前に係にご連絡ください。

編集ボランティアへのお願い

編集依頼は、今後「ウェブスタジオなにわ」を通してお願いするようになります。自宅編集ボランティアは「ウェブスタジオなにわ」を通してデータのやりとりを行います。来館編集者は「ウェブスタジオなにわ」からデータをダウンロードして編集をしていきますのでよろしくお願ひします。

原文	誤読	正しい読み
塩川正十郎	しおからせいじゅうろう	しおがまさじゅうろう
沖田 総司	おきたそうし	おきたそうじ
率直	すなお	そつちよく
収奪	しゅうぱく	しゅうだつ
長閑	ちょうかん	のどか
世故	せち	せこ
現場	けんち	げんば
吉持	きっしょうじ	きちじょうじ
牡鹿半島(宮城)	おがはんとう	おしかはんとう
日ム	にほんむ	ニホンム
山手線	やまてせん	やまのてせん